

## 04 G-COE Symposium on Organic Chemistry in Fukuoka

日時: 2011年2月26日  
場所: 九州大学筑紫キャンパス

九州大学先端物質化学研究所 友岡 克彦、伊藤 正人

炭素資源学に関連した有機化学分野における学術的交流と日本とシンガポールの研究者間の緊密な連携強化を目的として表題のG-COE Symposium on Organic Chemistry in Fukuokaを開催しました。8件の招待講演者から有機合成化学、有機構造化学、有機金属化学における最先端の研究結果が披露され、参加者からの質問に応じて活発な議論が展開されました。また休憩時間や懇親会場において、それぞれの分野が炭素資源学に果たす役割や、国内および近隣国における研究者間の連携の重要性について意見交換が行われ、今後のG-COE活動の展開に有意義な成果が得られました。

### 講演一覧

#### 【招待講演】

千葉 俊介(シンガポール 南洋理工大学)

"Copper-catalyzed aerobic oxidation for synthesis of nitrogen-containing molecules via iminyl copper species"

上野 聡(九州大学)

"Palladium-catalyzed oxidative functionalization of alkyl ketones and alkyl nitriles at the  $\beta$ -Position"

Han Vinh Huynh(シンガポール国立大学)

"Complexes of Indazolin-3-ylidenes and Pyrazolin-4-ylidenes and Determination of Ligand Donor Strengths by  $^{13}\text{C}$  NMR Spectroscopy"

伊藤 正人(九州大学)

"Catalytic hydrogenation of carboxylic acid derivatives"

Philip Wai Hong Chan(シンガポール 南洋理工大学)

"Lewis and bronsted acid catalyzed reactions of alcohol pro-electrophiles"

根平 達夫(広島大学)

"Prospect on fluorescence-detected circular dichroism an exploring tool of molecular structures"

Martin James Lear(シンガポール国立大学)

"A New and concise enantioselective total synthesis of (-)-platensimycin"

入江 亮(熊本大学)

"Catalytic oxidative tandem cyclization for the construction of chiral oxa-heterohelicenes and their stereochemical stability"



## 05 20周年記念万有福岡シンポジウム —最新の有機化学が発信する新しい「もの創り」のパラダイム—

日時: 2010年5月22日  
場所: 九州大学医学部百年記念講堂

九州大学先端物質化学研究所 永島 英夫、本山 幸弘

本シンポジウムは九州・中国地区の有機化学分野の若手研究者を啓蒙し、大学院学生の育成に寄与することを目的として1991年に発足し、西日本の有機化学研究者の交流と活性化に大きく貢献するシンポジウムとして毎年行われています。本年は第20回の節目を迎え、20周年特別講演3件、招待講演5件、ポスター発表23件を行いました。招待講演の平間先生、香月先生には

本シンポジウムを振り返っていただくと共にシガテラ中毒や酸素酸化における最新の研究成果、ノーベル化学賞受賞者であるSharpless先生にはClick Chemistryとその応用、西川先生にはテトロドキシシン合成、岩淵先生にはオキソアンモニウムイオンの触媒機能開発、吉戒先生と中尾先生には金属触媒を用いた炭素-炭素結合生成反応開発、ならびに青山先生には生体イ

メーキングの手法開発について講演して頂きました。またポスター発表では、21件の学生発表に加え、昨年の仙台ならびに札幌シンポジウムのBest Poster受賞者を招待して行いました。

### 講演一覧

#### 【特別講演】

平間 正博(東北大学)

"シガテラ中毒への化学的挑戦"

香月 扇(九州大学)

"酸素酸化にプロトン、電子移動システムは不可欠か?"

K. Barry Sharpless (The Scripps Research Institute)

"In situ Click Chemistry and Artificial Antibodies"

#### 【招待講演】

西川 俊夫(名古屋大学)

"テトロドキシシンの合成 —古くて 新しい天然物の合成—"

岩淵 好治(東北大学)

"オキソアンモニウムイオンの触媒機能開発と応用"

吉戒 直彦(シンガポール 南洋理工大学)

"鉄触媒による炭素-水素結合活性化を経るクロスカップリング反応"

中尾 佳亮(京都大学)

"協働金属触媒による炭素-炭素結合形成付加反応"

青山 安宏(同志社大学)

"生体イメージングの手法開発 —混雑系の有機化学に向けて—"

## 06 The 12th Cross Straits Symposium on Materials, Energy and Environmental Engineering (CSS12)

日時: 2010年11月17日~18日  
場所: POSTECH(大韓民国・浦項)

九州大学総合理工学府 小野田 穰

CSSは九州大学大学院総合理工学府、釜山国立大学(PNU; Pusan National University)、浦項工科大学(POSTECH; Pohang University of Science and Technology)による、「物質、エネルギー、環境」に関する国際シンポジウムです。本会(CSS12)はPOSTECHの主催によって、2010年11月17-18日に韓国の浦項にて開催されました。発表者の大半は博士課程の学生から成り、シンポジウムの企画、運営も学生が主体的に行っています。G-COEの「新炭素資源学国際演習」の国際化教育という趣旨と合致しているため、発表、討論のみならず、企画、運営に積極的に関与した学生には1単位が認定されています。

招待講演はそれぞれの分野から1名ずつ行われ、「物質」の分野では、尹聖昊教授(九州大学)によりカーボンナノファイバーのリチウムイオンバッテリーへの応用に関する講演をしていただきました。「エネルギー」の分野では、Hee-Chang LIM教授(釜山国立大学)によって風力エネルギー評価法の原理と、将来Jeju島が韓国の風力発電基地となりうるかの検証に関する発表がなされ、「環境」の分野ではSeokhwan Hwang教授(浦項工科大学)により自然環境のサンプルから微生物を同定するためのqPCRという解析法に関する講演がなされました。それ以外は全て学生による発表で、口頭発表はそれぞれの分野から6件ずつ、ポスター発表は

「物質」の分野が35件、「エネルギー」の分野が31件、そして「環境」の分野が30件でした。本会を通じた学生同士の交流が、今後お互いの切磋琢磨に繋がることと期待されます。

### 講演一覧

#### 【招待講演】

尹 聖昊(九州大学)

"A Series of Functional Carbon Nanofibers for Efficient Energy Storage System"

Hee-Chang Lim(韓国 釜山国立大学)

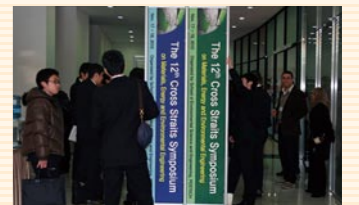
"Wind Energy Assessment Technique for Competitive Wind Market in Korea"

Seokhwan Hwang(韓国 浦項工科大学)

"Application of Quantitative Bio-Molecular Tool in Environmental Research"



▲Oral会場



▲Poster会場

